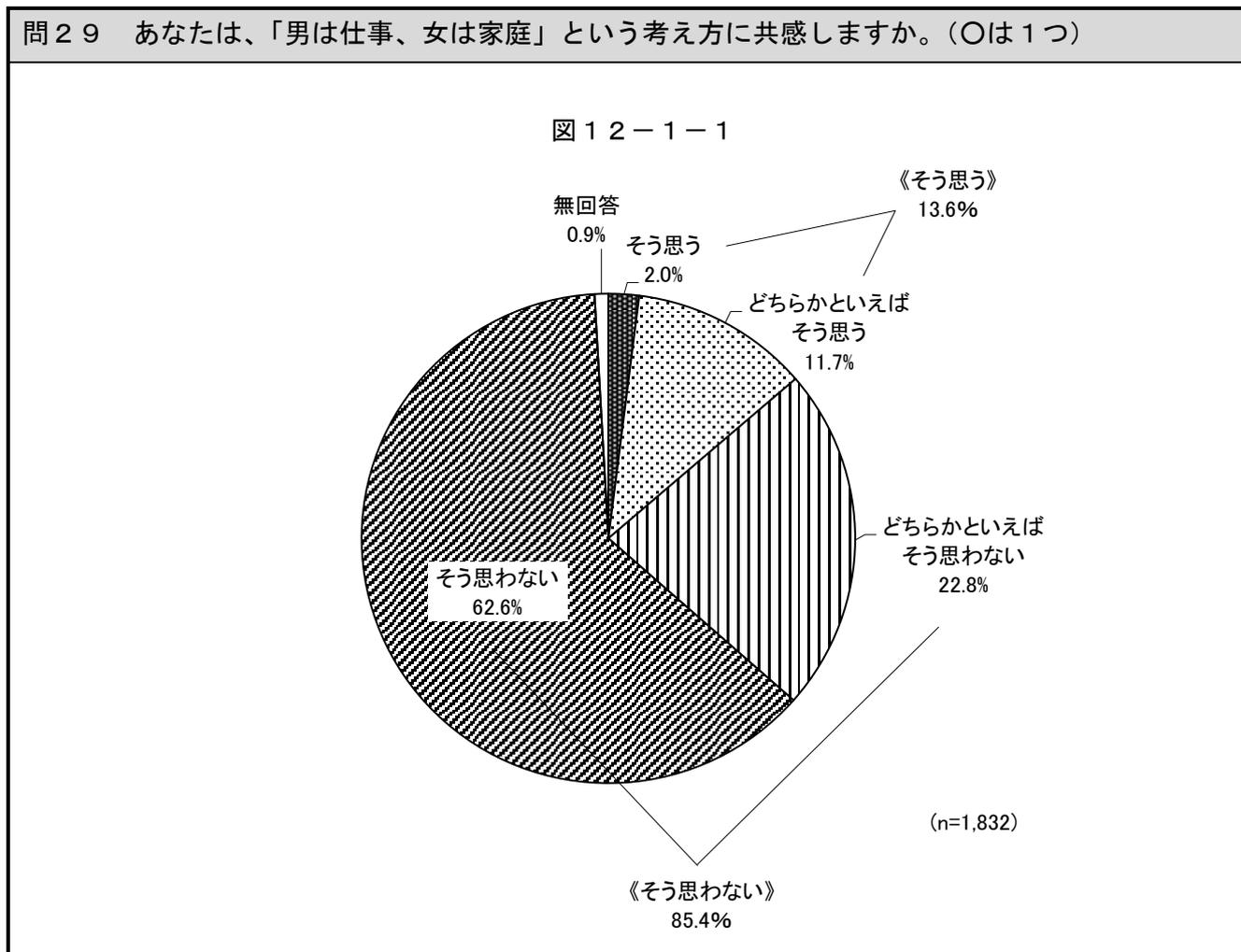


12. 男女共同参画の推進

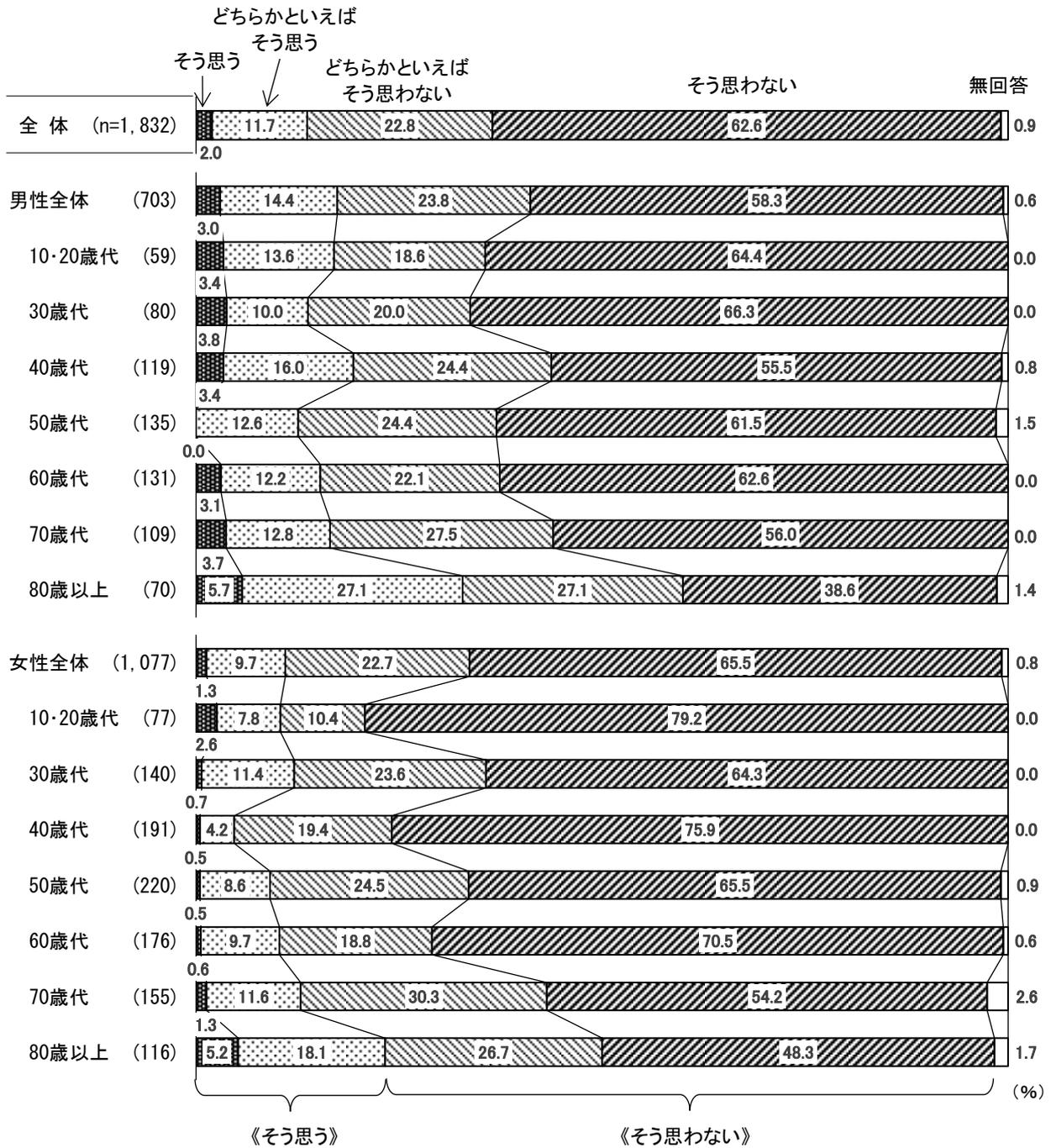
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎ 《そう思わない》が8割半ば



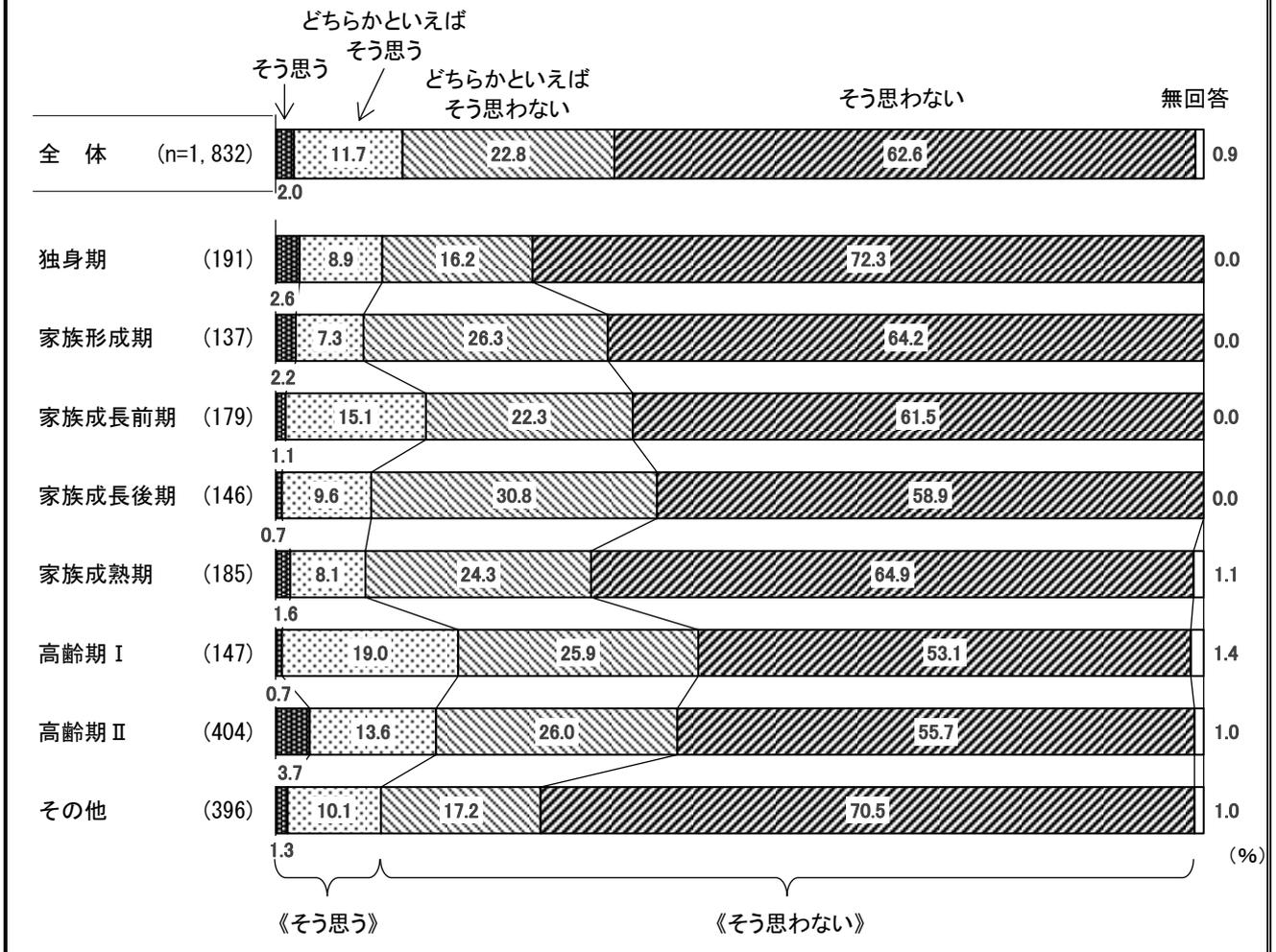
「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(62.6%)が6割を超えて最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(22.8%)と合わせた《そう思わない》(85.4%)が8割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思う」(11.7%)と「そう思う」(2.0%)を合わせた《そう思う》(13.6%)は1割を超えている。(図12-1-1)

図12-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《そう思う》は男女ともに80歳以上が高く、男性の80歳以上で3割を超え、女性の80歳以上で2割を超えている。一方、《そう思わない》は女性の40歳代で9割半ば、女性の10・20歳代と50歳代で9割、女性の60歳代でほぼ9割となっている。（図12-1-2）

図 1 2 - 1 - 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (ライフステージ別)



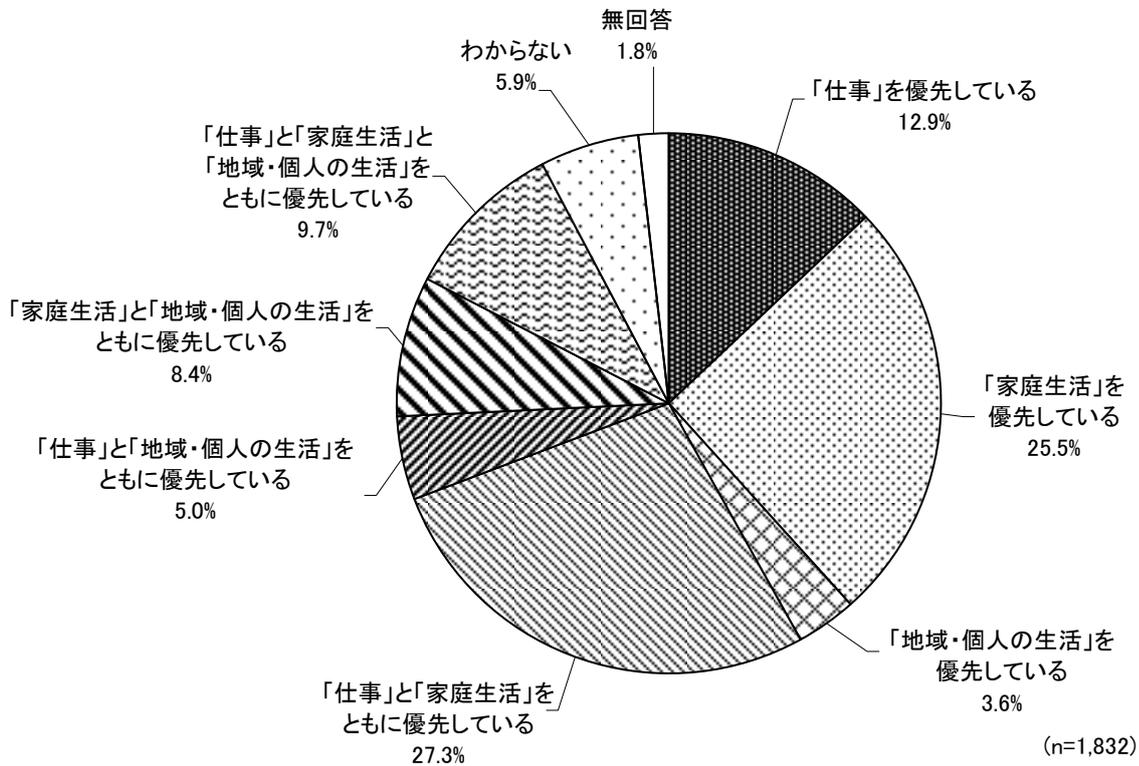
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期 I で 2 割となっている。《そう思わない》は家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で 9 割前後となっている。(図 1 2 - 1 - 3)

(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

◎ 「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が3割近く

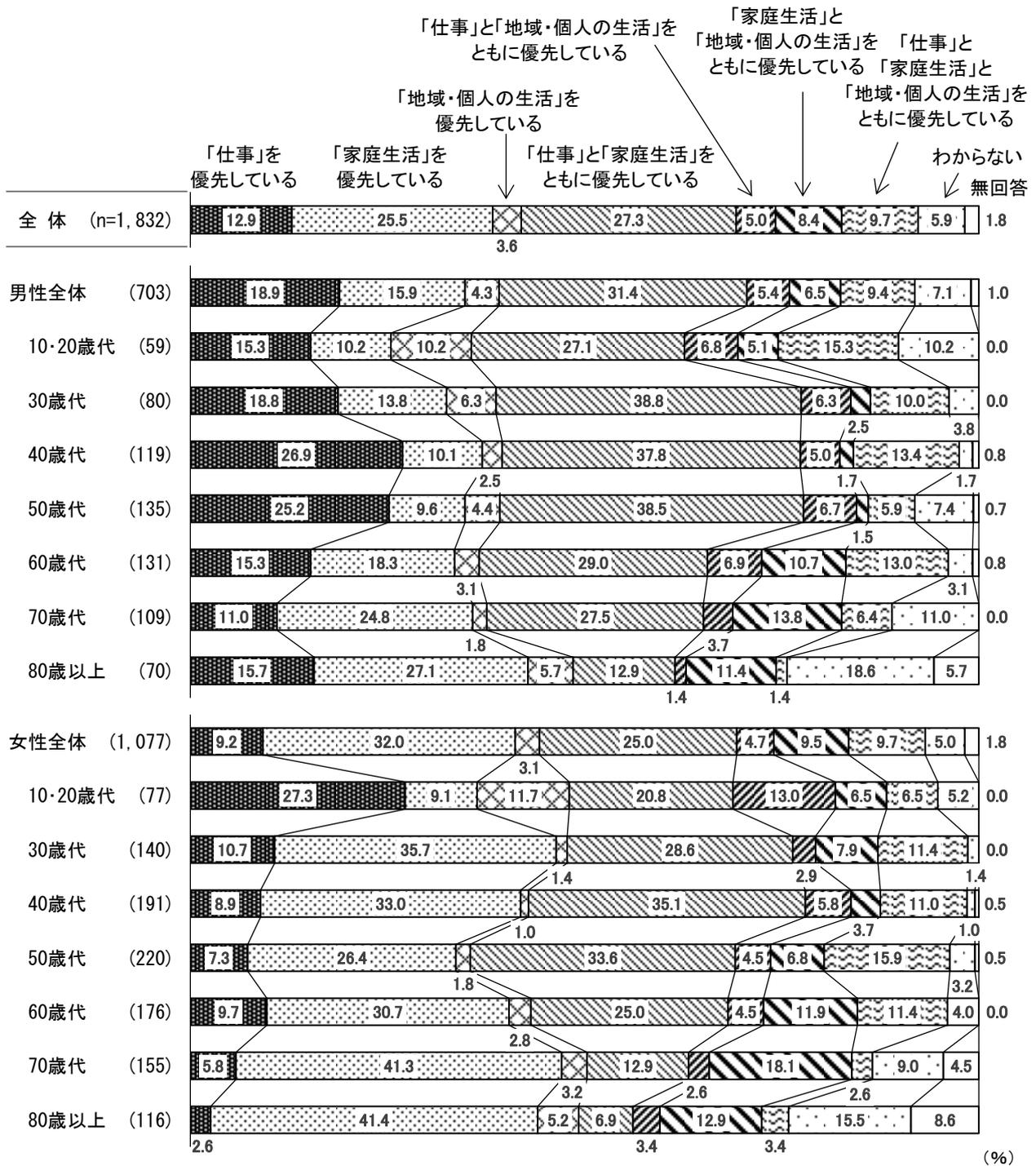
問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児、介護など）」「地域・個人の生活（地域・社会活動、学習・研修、趣味、娯楽、スポーツなど）」の優先度についておたずねします。あなたの現状に近いものはどれですか。（○は1つ）

図12-2-1



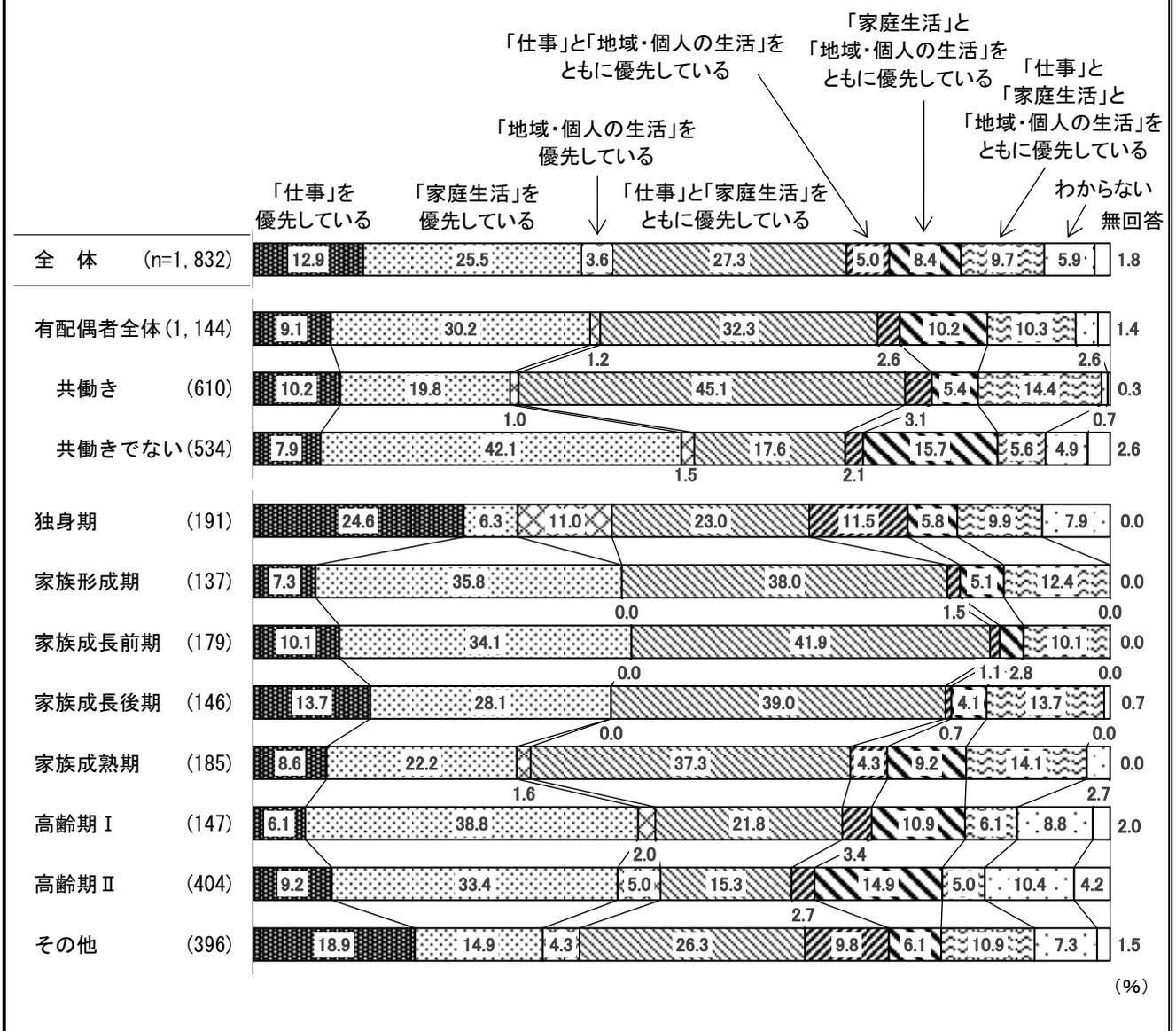
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を聞いたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」（27.3%）が3割近く、「「家庭生活」を優先している」（25.5%）が2割半ばとなっている。以下、「「仕事」を優先している」（12.9%）、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」（9.7%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」（8.4%）などと続く。（図12-2-1）

図 1 2 - 2 - 2 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているは男性の30歳代～50歳代で4割近くとなっている。「家庭生活」を優先しているは30歳代以上の各年代で男性より女性の方が高く、「仕事」を優先しているは30歳代以上の各年代で女性より男性の方が高くなっている。（図12-2-2）

図 1 2 - 2 - 3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度
(共働きの有無別・ライフステージ別)



共働きの有無別にみると、共働き世帯は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が4割半ばで最も高く、共働きでない世帯は「「家庭生活」を優先している」が4割を超えて最も高くなっている。

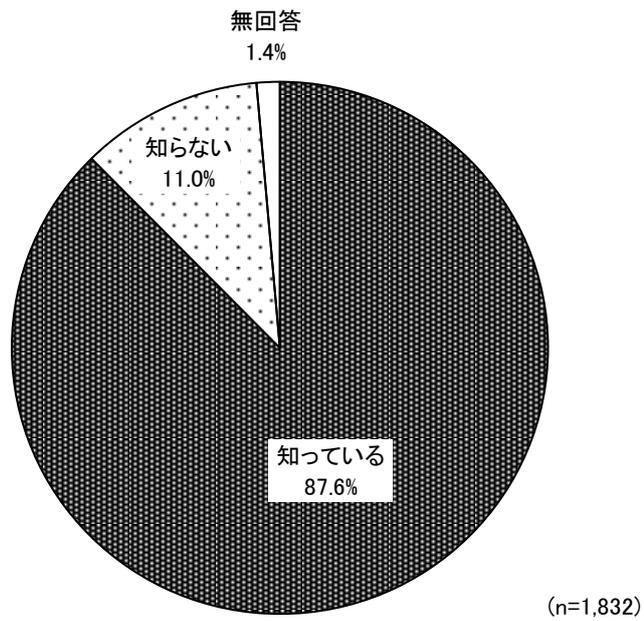
ライフステージ別にみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」は家族成長前期で4割を超え、家族成長後期でほぼ4割となっている。「「家庭生活」を優先している」は高齢期 I で4割近く、家族形成期と家族成長前期で3割半ば、「「仕事」を優先している」は独身期で2割半ばとなっている。(図 1 2 - 2 - 3)

(3) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎「知っている」が9割近く

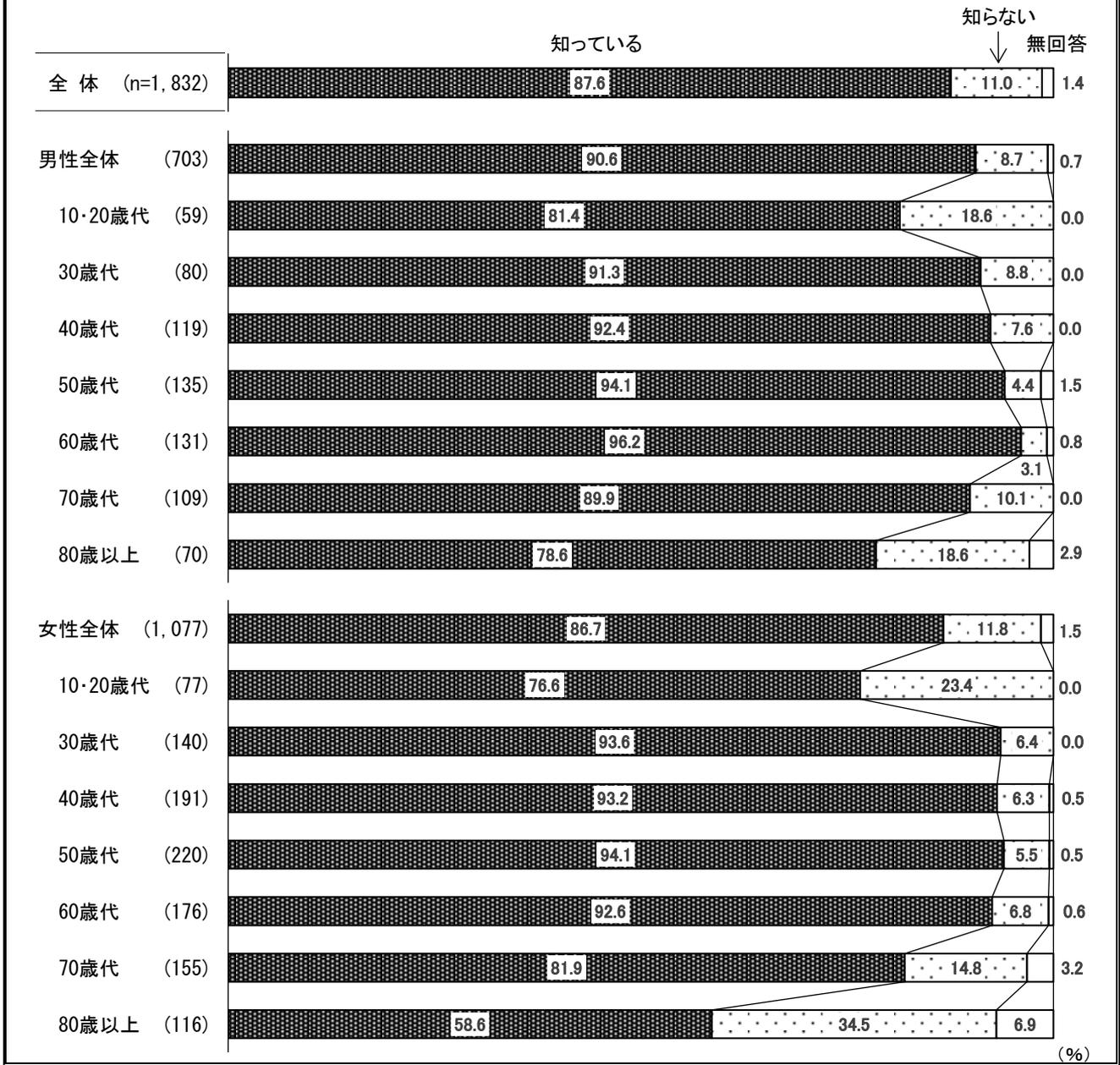
問3 1 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(○は1つ)

図1 2-3-1



性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(87.6%)が9割近く、「知らない」(11.0%)が1割を超えている。(図1 2-3-1)

図12-3-2 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）



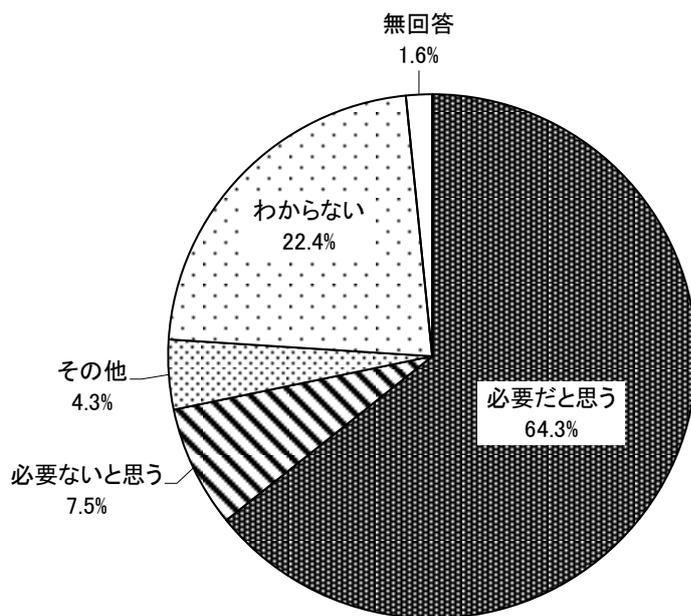
性・年齢別にみると、「知っている」は男女とも30歳代～60歳代で9割台となっている。「知らない」は女性の80歳以上で3割半ばとなっている。（図12-3-2）

(4) 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性

◎「必要だと思う」が6割半ば

問32 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(○は1つ)

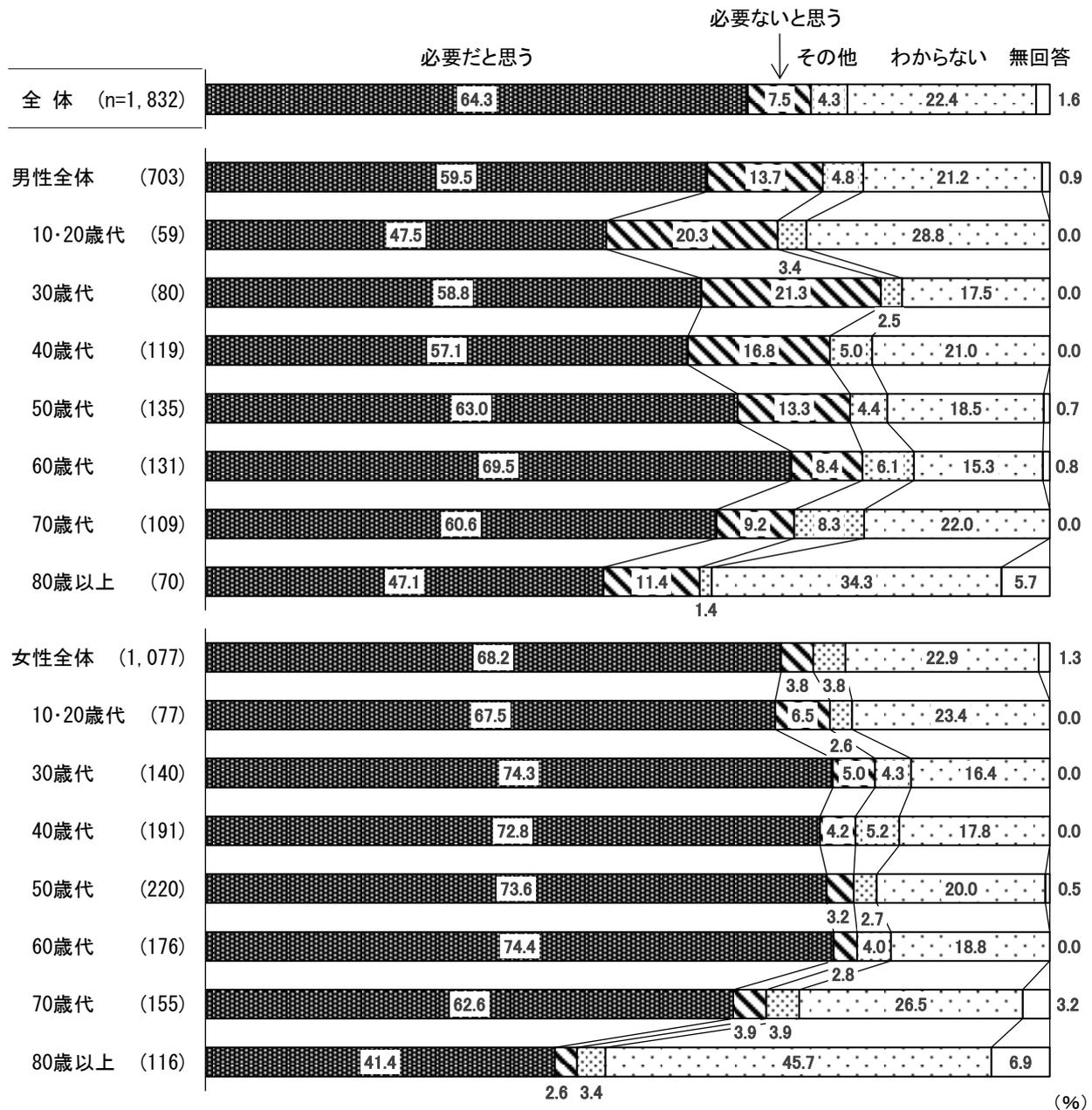
図12-4-1



(n=1,832)

性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策の必要性を聞いたところ、「必要だと思う」(64.3%)が6割半ばで最も高い。以下、「わからない」(22.4%)、「必要ないと思う」(7.5%)、「その他」(4.3%)と続く。(図12-4-1)

図 1 2 - 4 - 2 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性 (性・年齢別)



(%)

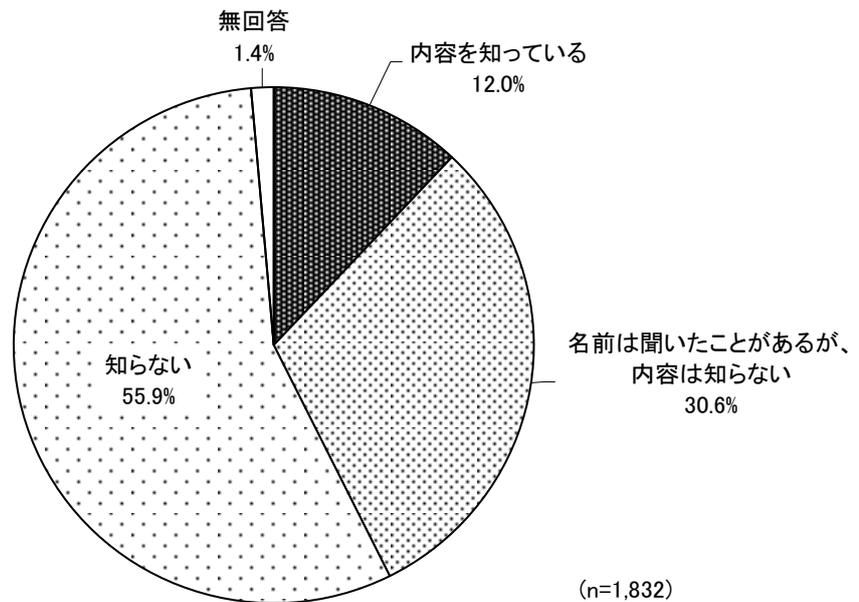
性・年齢別にみると、「必要だと思う」は女性の30歳代と60歳代で7割半ば、女性の40歳代と50歳代で7割を超え、男性の60歳代で7割となっている。「必要ないと思う」は男性の30歳代で2割を超え、男性の10・20歳代で2割となっている。(図12-4-2)

(5) 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度

◎ 「知らない」が5割半ば

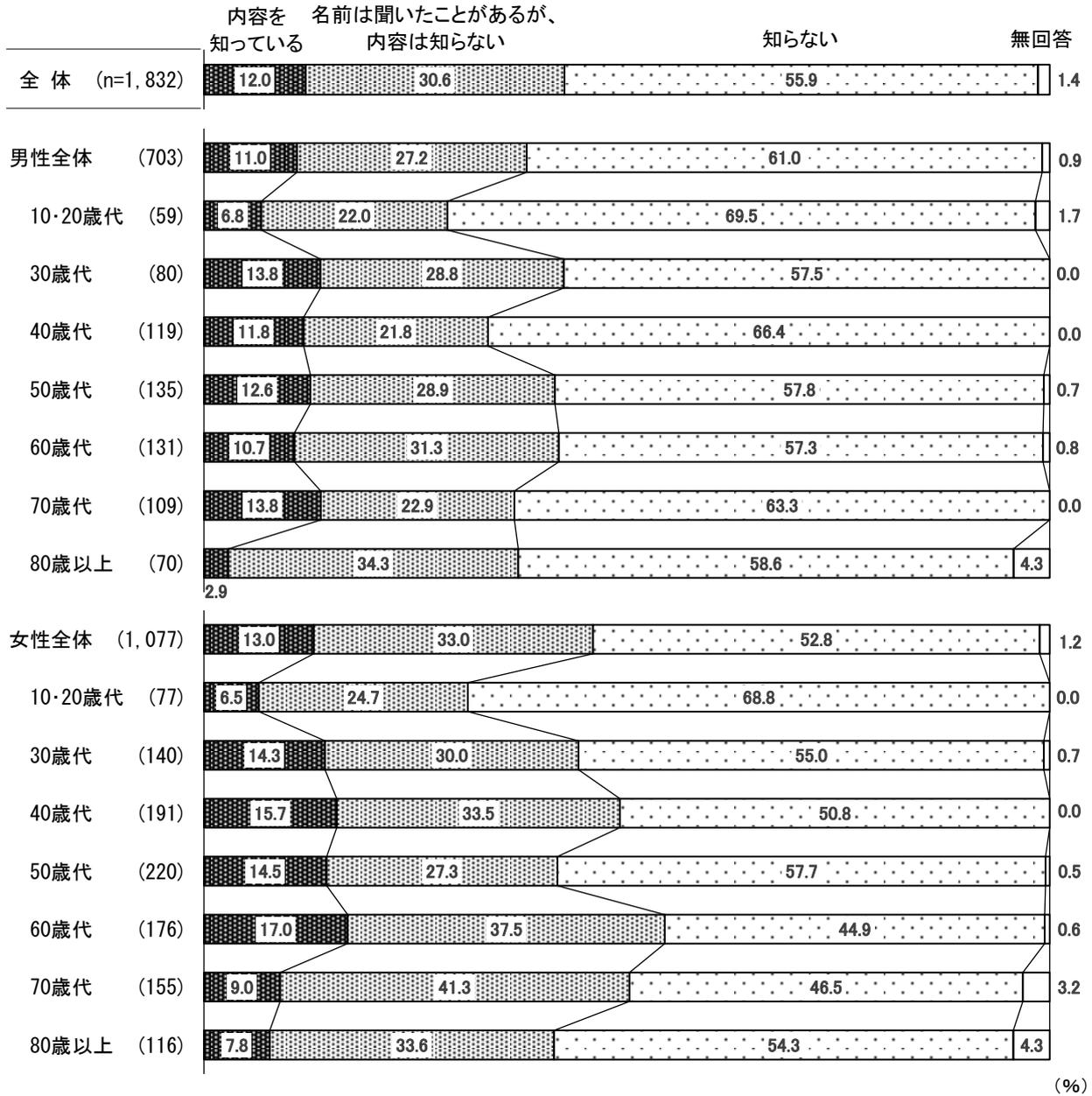
問33 あなたは、「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」を知っていますか。(○は1つ)

図12-5-1



「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」を知っているか聞いたところ、「知らない」(55.9%)が5割半ばで最も高い。「名前はあるが内容は知らない」(30.6%)がほぼ3割、「内容を知っている」(12.0%)が1割を超えている。(図12-5-1)

図 1 2 - 5 - 2 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「内容を知っている」は女性の60歳代で2割近くとなっている。「知らない」は男性の10・20歳代で7割、女性の10・20歳代で7割近くとなっている。（図12-5-2）